

《情報公開文書》

間質性肺炎患者の身体活動量が示す臨床的意義の検討

研究の概要

【背景】

間質性肺炎は肺の病気で、歩くなどの日常労作でも呼吸がきつく感じる事ができます。しかし、現在主に行われている安静時の動脈血中の酸素分圧のデータや呼吸機能検査といった方法のみでは、患者さんの労作時の呼吸のきつさを十分に反映できていないのではないかといった問題点も指摘されています。

近年、「タバコ病」の別名でも知られている慢性閉塞性肺疾患（COPD）においては、労作に注目した身体活動量（患者さんが日常生活でどのくらいの活動ができているかを示す指標）が重要な臨床評価項目として認識されるようになってきました。しかし、COPDと比較して、間質性肺炎患者さんにおける身体活動量に関する研究報告は少なく、身体活動量の臨床的意義について不明な点が多いのが現状です。

【目的】

この研究の目的は、間質性肺炎患者さんの身体活動量を調査し、これまで診療で得られたデータとの関連を検討し、間質性肺炎患者さんにおける身体活動量の臨床的意義を明らかにすることです。

【意義】

間質性肺炎患者さんにおける身体活動量の臨床的意義を明らかにできれば、治療方針の決定や療養計画に寄与することができるものと考えています。

【方法】

以前、「労作性呼吸困難を呈する患者における身体活動量に影響する要因－間質性肺炎患者と慢性閉塞性肺疾患患者の比較－」、「間質性肺炎患者の身体活動量に関連する要因－慢性閉塞性肺疾患患者との比較－」に参加いただいた患者さんのデータとこれから調査を行なう患者さんのデータと合わせて解析を行います。

対象となる患者さん

虹が丘病院または長崎大学病院の呼吸器内科を受診しており、以前、「労作性呼吸困難を呈する患者における身体活動量に影響する要因－間質性肺炎患者と慢性閉塞性肺疾患患者の比較－」、あるいは「間質性肺炎患者の身体活動量に関連する要因－慢性閉塞性肺疾患患者との比較－」に参加いただいた方が対象です。

研究に用いる情報

「労作性呼吸困難を呈する患者における身体活動量に影響する要因－間質性肺炎患者と慢性閉塞性肺疾患患者の比較－」、「間質性肺炎患者の身体活動量に関連する要因－慢性閉塞性肺疾患患者との比較－」の中で伺ったアンケートの内容やその際に確認させていただいたカルテの情報を我们用います。

- ・カルテ内を閲覧し調査させていただいた内容で用いる情報：基本情報、呼吸状態、運動耐容能
- ・アンケートで伺った内容で用いる情報：日常生活動作の評価
- ・身体活動量に関する情報：1日の歩数、座位活動時間、低強度活動時間、中等度活動時間

情報の利用開始予定日

本研究は2025年3月13日より「研究に用いる情報」を利用する予定です。

あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2027 年 12 月 31 日

研究実施体制

研究代表者	所属：長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 看護学分野 氏名：石松 祐二 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7941
共同研究機関／研究責任者	この研究は長崎大学病院を中心に県内の他2機関で実施します。 詳しい研究機関についてお知りになりたい方は下記の「お問い合わせ先」までご連絡ください。 虹が丘病院 呼吸器内科 田中 宏典 長崎原爆諫早病院 呼吸器内科 福島 喜代康
本研究における 情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学大学院 医歯薬学総合研究科 看護学分野 石松 祐二

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095（819）7941 FAX 095（819）7941

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7616

受付時間：月～金 9：30～17：00（祝・祭日を除く）